

(11.0.21-3)

情報部

1



亞細亞局
關稅高支第一〇八六八號ノ二

昭和七年七月一日

關東廳 總務局

拓務	內務	外務	陸軍	海軍	農林	商工	司法	文部	逓信	鐵道	礦務	地務	官
次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官	次官
局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長	次長
課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長
主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事
技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正
技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士
書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記
庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務
主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事	主事
技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正	技正
技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士	技士
書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記	書記
庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務

國民政府ノ對日宣戰決意説下其内情

(滿鐵情報)

72

0072

非改現

昭和七年七月 六日 發

關東廳 總務局

7/7

2

頃日盧山會議ニ於テ決定サレシトイフ對日方策ニ就テ鐵路党部顧問
現會計處検査課長関星燦氏ノ筆者ニ洩ス處ニ依レハ國民政府ハ本年
九月乃至十一月ニ於ケル國際聯盟ノ結果如何ニ依リテハ斷然對日宣
戰布告ヲ決意セリト尙國民政府カ宣戰ヲ決意スルニ至リシハ國際聯
盟カ勸令中國側ニ同情シ中國ノ期待ニ副フ如キ決議ヲ行フモノトシ
テモ此ノ如キ決議ハ日本側ニテ受諾セサルヘク反對ニ日本側ニ満足
ヲ與フル如キ決議ハ中國亦之カ受諾ヲ難シトスルハ明ナレハ結局聯
盟ノ決議勸告ハ悉ク何方附カヌノ中間的不徹底ノモノナルヘシモシ
然ラストスルモ對日經濟ノ封鎖實行ノ一段ハ各國利害ノ不同ニ依リ
テ實現不可能ト見ルヘシ故ヲ以テ中國カ聯盟ニ全幅ノ期待ヲ禁ク如
キハ徒ニ失望ヲ大ナラシムルニ過キス然レ共今ヤ聯盟加入國ノ大部
ハ中國ノ主張ヲ支持スル事明瞭ナレハ中國カ日本ノ侵略ニ對シ此際

73

0073

敢然對日宣戰ヲ布告シ嗣テ日本ノ攻撃ニ始ツテ戰端開カレシカ各國
ハ行懸リ上戰爭ヲ抑止スル爲何等カノ干涉ヲ行ハサルヲ得サルヘク
然ル時中國ハ之ヲ誘引シテ聯盟國以外ニ米露ヲモ加エタル列國會議
ニ化セシメ日本ヲ組上ノ魚タラシムル事亦難事トセス若シ列國ノ足
並彌ハスシテ期待スル干渉來ラサル場合ハ米露ヲ叩キテ戰爭ニ引込
ニ於テハ列國ハ利害ノ越ク處ニ隨テ分解作用ヲ起シ難テハ第二次世
界戰爭ヲ誘發スヘシ 當面世界各國ニ對スル中國ノ面子上又對內的
ニ考ルモ此際無爲ニ過シテ日本一國ノ前ニ屈伏セリト見ラルルヨリ
ハ例令戰爭ノ不利ニ終リシ場合ノ結果ヲ豫想スルモ條國ト共ニ敗後
ノ痛苦ヲ分ツル之ヲ堪ヘ易シトナス幸ニ中國側ノ勝利ニ局ヲ結フヲ
得ハ其後ノ事ハ言ヲ用ユルノ要ナシ惟タ宣戰布告ト共ニ日本ヨリ受
クル攻撃ハ一時之ヲ苦痛トスヘキモ已ニ濟南、上海兩事變ノ體驗ア

リ加フルニ連年幾多ノ内亂ヲ經テ商民ノ戰爭ニ對スル驚悸ハ傍人
ノ思念スル程民心ニ衝擊ヲ與ヘス今ヤ中國ノ生クル道ハ萬策ヲ盡シ
テ日支係爭ヲ世界戰爭化セシムルノ一途ヨリ在ルヘカラスト

以上ハ今次國民政府カ對日戰爭ヲ決意シタル議論ト觀點ニ就テ閻氏
ノ談話ヲ綜合敷衍シタルモノナルカ其事實ノ確否ハ證リニ筆者ニ於
テ憶測ヲ加フヘキニ非ルモ最近此事實ニ照應スル消息トシテ注意ヲ
惹クハ廬山會議ノ結果對立關係ニアル廣東派カ蔣派ニ合流スル事ト
ナリ孫科ハ行政院長兼鐵道部長ニ就任スル筈ナリトノ南京電報ナリ
現在兩派ノ抗爭ハ廣東派ノ對日宣戰論ヲ蔣派ニテ受納シ得サルニ基
因ス然ルニ廬山會議ノ結果兩派ノ合流ナリシトセハ廣東派宣戰ノ主
張カ蔣派ニ容レラレタルモノト解シ得ヘク宣戰決意說ト照應シテ首
肯シ得ル所トス而シテ廣東派カ何ヲ以テ宣戰ヲ主張スルカニ就テハ

筆者ノ豫テ開知スル處其緣由左記ニ出テス

一 滿洲問題未タ勃發セス日支間ニ不祥事件頻發シテ兩國ノ關係漸ク
危機迫ルノ時孫科及陳友仁等ヲ廻ル廣東派ノ政治的主張ハ滿洲ニ
對シテハ日本ノ要求ヲ容ルル代リ關内ニ於ケル日支間ノ諸懸案ハ
日本ニ讓歩ト援助ヲ求ムルコトニヨリテ多年兩國間ニ鬱積シタル
感情ヲ清算シ以テ日支間交ヲ正軌ニ還ラシムヘシトナシ此方針ヲ
根底ニ蔣介石派ヲ以テ成ル南京政府ノ措置ヲ攻擊解體セシメ蔣派
ニ代ツテ日支間問題解決ノ責任ニ直面セリ

二 政權ヲ奪ハレタル蔣派ハ廣東派ヲ攻擊スル要具ニ陳友仁ノ渡日密
約說ヲ翳シ日本ニ對シ廣東派ハ滿洲ヲ讓與スルカ如キ賣國的措置
ヲ執ルカニ宣傳シテ國民ノ敵愾心ヲ煽動シ勢ノ趨ク處遂ニ陳友仁
ノ釋明的聲明ノ發表ヲ餘儀ナクシ同時ニ廣東派ノ政策ハ實行不能

ニ陷リシノミナラス反テ對日強硬政策ニ還元シテ退却セリ

三 南京政府ヨリ離レタル廣東派ハ蔣派ノ攻擊武器ヲ其儘之ヲ蔣派ニ
逆用シ蔣派カ滿洲事變ニ會シテ武力抵抗ヲ非トシ戰爭迴避ニ出ツ
ルヤ屈辱喪權ナリトシテ百方攻撃シテ措カス遂ニハ對日強硬ヲ呼
號スル立前上自派系ノ第十九路軍ヲ使喚シテ上海戰爭ヲ演出セシ
メ一面新聞ヲ操縱シテ大々的ノ戰勝虛報ヲ飛ハシテ全國民ノ耳目
ヲ瞞蔽シ繼テ十九路軍ノ敗戦ヲ見ルヤ蔣派軍隊ノ傍觀不援ニ依ル
結果ト難シテ蔣派ヲ苦境ニ陷ラシメント謀リ今尙蔣派ノ無抵抗ヲ
痛罵シテ國民ノ敵愾心宣揚ニ日モ足ラサル所ナリ

歸テ看ルニ近數年來支那政界ニ於テ排日侮日抗日ノ煽揚ハ反對派ニ
取リ政府ヲ攻擊スルニ唯一ノ武器トセラレ當初ニ於ケル廣東派ノ如
キ穩健政策ニ依テ國運打開ヲ試ミントシナカラ一度此ノ武器ヲ以テ

臨マシカ絶クモ崩壊シタル支那ノ現状ニ於テ廣東派ノ死命ヲ制シタル
臨派ノ利劍ハ其位置ヲ替レハ從テ廣東派ノ利劍ト化ス此ノ如クニ
シテ交互ニ排日ノ利劍ヲ亂用シ合フ間ニ不知不識自他共ニ救フヘカ
ラサルニ至リ崖頭ニ立テ馬首ヲ回サントスルモ勢ノ趨ク所違ニ及ハ
スシテ深淵ニ顛落シタルカ支那政局ノ實相ナリ
廣東派ノ陳友仁ハコノ趨勢ヲ早クモ窺取シ日支間ノ癰癤ヲ解消ス
ルニ唯一方途ハ戦争ニ依ル外科的治療アルノミトノ信念ヲ抱持スル
ニ至リシカ陳友仁ノ此信念ハ廣東派ノ對日政策ヲ形成スルモノナル
コトハ當然ニシテ先般孫科ノ名ニ於テ聯露親米策ヲ公表シタルト符
合セリ陳ハ傍人ニ語ルニ日支間ノ關係ハ戦争ノ聖火ニ淨メラレタル
後ナラテハ眞ノ諒解ト共存共榮ノ域ニ達シ難シト又陳ノ戦争論ハ必
スシモ自國ノ必勝ヲ確信シテノ主張ニ非ス勿論戦争ニ訴フル以上有

ユル手段ヲ盡シテ自國ノ勝利ヲ企圖スルハ當然ノ措置ニテ利アリト
見レハ米露ヲ引込ミ或ハ世界戦争ノ誘發ニ努ムルモ別ニ異トスヘキ
ニ非ルモ惟タ彼陳友仁カ戦争ヲ以テ日支間交ヲ正軌ニ回スノ手段ト
爲ス處ニ彼一家ノ見アルヲ知ルヘシ已ニ此廣東派ノ主張カ聯露ニモ
容納サレ對日宣戰ノ方針決定サレタリトセハ日支間ノ戦争ハ不可避
ト見ルヘク波及スル範圍ヲ遡察シ今ニ於テ遺憾ナキ準備ヲ整フル事
緊要事ト見ルモノナリ

以上

寫送先

大臣 次官
電信課長
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事

(分類A.1.1.0.25-3)

昭和7 一五三六二 略 廣東 本省 五日後發 亞
齋藤外務大臣
第四八三號
往電第四七九號ニ關シ
新聞ニ依レハ蔡廷楷ハ四日香港ヘ向ケ離廣セル趣ナルカ出發ニ先タ
チ漢字紙記者ニ對シ「剿共問題ニ關スル打合モ大體纏リタルニ付五
日香港發厦門ニ赴ク豫定ナル」旨語り居レリ不取敢
支、北平、奉天、天津、濟南、青島、漢口、福州、南京、厦門、汕
頭ヘ轉電セリ
香港ヘ暗送セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

外務省

記録
上海ニ於ケル日支衝突事變關係一件
七月五日發着
須磨總領事代理

80

0080

亞細亞周

七外親第八一八六號

昭和七年七月六日

長崎縣知事 鈴木信太郎

内務大臣山本達雄殿
外務大臣齋藤實殿

警視廳北海道神奈川
大阪府兵庫宮城台福岡
各長官殿

南京政府ノ對日滿方針並

激勵公文送付越ノ件

(要旨)

一 日本議會、偽滿洲國承認決議ハ日本最後ノ假面ヲ脱キタルモノナリ

二 日本ノ聯盟規約及九國条約違反ニ對シテハ從來ノ方針ニ依リ頑

強ナル抵抗ヲ為スコトニ変リナレ

三 日本カ如何ニ粉飾スルモ偽政府ヲ承認セサルノミナラス、失

地回復ノ努力ヲ停止セサルコトヲ再三宣言スルモノナリ

四 全國民衆ハ素志貫徹ニ團結ヲ希望ス

本月二日南京中央政府行政院ヨリ長崎駐在中
國領事宛秘密公文到達シタルヲ以テ内領
スルニ左記譯文ノ通り對日滿方針並激
勵ノ公文ナルコト判明シタルカ令領事ニ於テ
ハ之ヲ複寫シ在留各種團體ニ對シ近日中
頒布スル模様ナリ

0082

82

81

0081

石及申の通報候也

記

全國各人民團體、各新聞社、海外各華僑
團體公鑒

報導セラル、所ニ依レハ日本議會ハ既ニ偽滿
洲政府ヲ承認スル事ヲ決議シメトノ事デア
ルカ、之ニ依ツテ日本ハ既ニ其ノ最後ノ假面ヲ
脱キ棄テタモノデアル事ヲ知り得ルノデア
ル。日本カ大膽ニモ其ノ軍隊ノ力ヲ以テ作ツタ傀
儡組織ノ承認、自身署名シタル所ノ國際聯

83

0083

盟規約及ヒ九國條約破棄ニ對シテハ政府ハ
反對ノ宣言ヲナシテ外交部ヲシテ嚴重ナル抗議
ヲナサシメタルト共ニ從來ノ方針ニ依リ頑強ナ
ル抵抗ヲナシテ失地回復ヲナス事ヲ念トシテ居
ルノデアル。東北ノ同胞カ大事變ニ遭遇シ偽政
府ノ種々ナル壓迫下ニ於テ生命財産ハ毫モ
保障サレ居ラス、精神的痛苦ノ絶大ナル時、之
ヲ聞ク者ヲシテ政府ノ態度ニ益々懸念セラル
事ト思ハル、カ故ニ重複スルニモ拘ラス、政府ハ
日本カ如何ニ粉飾スルモ決シテ傀儡ヲ承認

84

0084

セス、其ノ大地回復ノ努力ヲ停止スルモノニ非
スト。茲ヲ事ヲ再三宣言スル次第デアル。
尚ホ全國民衆ニ對シ、其ノ素志ヲ本トシ、
自ラヲ鞭撻シ、臥薪嘗膽、徳ヲ一ニシ、心ヲ
一ニシ、真正ノ團結ヲナシ、多方面ニ互ニ準
備ヲナス様希望スルノテアル。行政院長
汪兆銘（十七日）

外務省

87

0087

メ差支ナキヤヲ質シタルニ對シ學良ハ考慮ノ要アリトテ明答ヲ避ケ
タル由ナルカ學良トシテハ蔣介石ニ繼リ現地位ニ嚙リ附キ切バ詰マ
リタル場合ハ兵三萬ヲ率ヒテ察哈爾ニ移ラントスル底意ヲ有スルヤ
ニ察セラル云々
支、北平、奉天、南京へ轉電セリ

寫送先

大臣
次官
電信課長
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書

(分類 1.1.1.0.21-3.)

劉紹九

外務省

86

0086

昭和7 一五六二七 暗 天津 本省 七日八日後發 桑島總領事
第二七〇號
宇ノ内話左ノ通
廬山會議ニ於テ東省問題ニ關シテハ(一)滿洲ニ於ケル一切ノ自治組織
中對日關係ハ之ヲ承認スルモ(二)最高長官ノ任命ハ中央側ニ保留ス(三)
若シ日本側ニ於テ之ヲ容認セサル場合ハ米、露ト三角同盟ヲ結ビ東
北ノ武力回收ニ出ツルノ方針ヲ決定シタルカ過般汪精衛等北上ノ節
右(三)ノ場合學良ニ於テ部下ヲ率ヒ出關スル覺悟アリヤ若シ其決意ナ
キニ於テハ中央ヨリ選定スヘキ第三者ヲシテ關内東北軍ヲ指揮セシ

記録件
滿洲地方官廳與滿洲關係一件
各
21/1/21
86

記

編者附言
ろりき
A. 6. 1. 3. 1. 1.
支那地方政治
關係概論
南支政治
つづ

寫

分類 A. 1. 1. 2. 1-4

昭和7 一五八八〇 暗

香港 本省

十二日前發
七月十二日後着

内田外務大臣

吉田總領事代理

第一三三號

十一日「プレシデント、フーヴァー」ニテ上海ヨリ朱慶瀾來香シ廣東
及海軍ノ内爭調停ノ爲ト稱シ居ルモ同人ハ上海ニ於ケル償復東北失
地聯合會ノ發起人タル關係上之カ寄附金募集旁々南方ニ於ケル同運
動助勢ノ下心ナルヘシト傳ヘラレ居レリ

支ヘ轉電セリ

支ヨリ上海、南京ヘ轉報アリ度シ

廣東ヘ暗送セリ

外務省

88

0088

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

寫送先

分類 A. 1. 1. 2. 1-3

昭和7 一五九六八 暗

廣東 本省

十二日後發
七月十三日後着

内田外務大臣

須磨總領事代理

第四九五號

唐紹儀カ十二日本官トノ會談ニ於テ滿洲問題ニ關シ吐露シタル意見

左ノ通

一、袁世凱カ張作霖ヲシテ東三省ヲ采配セシメタル時以來實ハ滿洲ノ
關スル限り獨立セルモ同然、行々ハ朝鮮同様トナルヘキヲ恐レ居リ
客年三月南京ニ於テ蔣介石ニ對シ張學良トノ關係ヲ律スル上ニ於テ
大ニ考慮ノ要アルヘキヲ告ケ前記ノ意見ヲ述ヘ置キタル次第ナルカ
自分以外ニ於テモ心有ル者ハ之ヲ肯定シ居ルモノト認メラルル處何

外務省

89

0089

記

記録

滿洲日支衝突關係一件

（名）（姓）（氏）（名）（姓）（氏）

シロ客年滿洲事件以來國際聯盟ニ頼リ餘リニ大向ヲ悦ハセ乘引ナラサル事態ニ立至ラシメタル今日トナリテハ滿洲問題ニ關シ有效ノ事實ヲ事實トシテ認ムルノ議論ヲ爲ス者無キ實情ナレハ滿洲問題ノ解決ハ相當ノ期間ヲ經タル後ニ非サレハ實現セラレサルカ如シ
三十二日青島ヨリ來廣セル某要人（朱慶瀾カ）カ南京ニ於テ得タル情報ニ依レハ汪精衛等ハ滿洲ヲ「オウトノマス、ステイト」トシ日本ヲシテ支那ノ主權ヲ認メシムルノ「ライン」（往電第四七二號）ニテ日本ト交渉開始ノ方針ナリトノ事ナルカ右ハ結局張作霖時代ト同様ノ名義上ノ主權ヲ主張スル所以ナレハ更ニ問題ヲ紛糾セシムル以外意味無シ

三、何レニセヨ自分ノ見ル處ニ依レハ蔣介石若ハ其一統ニ於テ滿洲問

外務省

90

0090

題ヲ根幹トスル日支關係萬般ノ處理ヲ進メ得サルハ先ツ明白ナリト
言フヘク、サレハトテ今ノ處彼ニ代ルヘキ有力者モ見當ラス結局自分年ハ主張タル支那合衆國ヲ形成シ清朝カ事績ヲ擧ケタル所謂協省ノ制度ニ依リ富裕ナル省カ近隣ノ貧乏省ヲ盛り立テ例ヘハ廣東カ廣西ヲ率キテ夫々支那大聯邦ノ完成ヲ見ルノ時ニ非サレハ道理有ル解決ハ至難ナルヘク旁現下日支間諸懸案ノ解決ハ餘リ難シサル事得策ナルヘシ
四、懸案解決ノ方法トシテハ事實ニ直面スル勇氣ヲ有スル雙方政治家直接胸襟ヲ開キ接觸スル外日本側ニ於テモ別ニ期待スル處有ラハ格別左モ無クハ大体圓卓會議ノ如キハ効果決シテ大ナラサルヘシト思

考ス

外務省

91

0091

寫送先

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事

大臣
次官

電信課長

21-3
分類 1. 1. 1. 0. 21-4-1

昭和7 一五九八八 略
上海 十三日後發
本省 七月十三日後着
内田外務大臣
第八四三號
村井總領事
東北ヲ視察シ歸京セル中央執行委員朱。青。(奉天省人日本士官學校卒業)ハ目下當地ニ在リテ東北義勇軍ノ狀況ヲ各方面ニ紹介シ大ニ失地恢復熱ヲ煽リ居タルカ今般東北國民救國軍ナルモノヲ組織シタル由ニテ昨十二日救國軍指揮總監ノ名ヲ以テ中央黨部國民政府初メ全國各方面ニ對シ「領土ノ恢復ハ國民力武裝ヲ擴大シ自力ニテスル外ナキヲ以テ茲ニ東北國民救國軍ヲ組織シ日本軍一人殘ラス國土ヨリ撤退スル迄戰フ可シ」云々トノ通電ヲ發シタル趣ナリ(奉天

外務省

93

0093

記

記録
外務省
關係一件
附
外務省
關係一件
附

支、北平、奉天、南京へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

外務省

92

0092

寫送先

文 人 文 情 條 通 歐 亞
書 事 化 報 約 商 米 細 亞

次 官
大 臣

電信課長

分類 1.1.0.21-3

昭和7、一六二二九 暗
本省 廣東
七月十六日後發
吉田總領事代理
往電第五〇〇號ニ關シ
本官同道十五日李宗仁ヲ往訪シ新任及離任ノ挨拶ヲ申述ヘタル上三
人鼎座シ日支問題ニ關シ左ノ如キ忌憚ナキ談話ヲ交換セリ
一、先ツ須磨ヨリ客年來ノ好關係ヲ說キ起シテ滿洲關係ニ及ビ同問題
解決ニハ從來廣東派力唱ヘタル大亞細亞主義ノ精神ヲ体シ大局ヨリ
政治的ニ解決スルヲ要スル次第ナル處日本ニ於ケル對滿問題ノ空氣
ヲ察スルニ滿洲國ハ既成事實トシテ之ヲ認メ此ノ方針ノ下ニ日支諸

外務省

0095

(記)

記録名

滿洲國ニ對シテ
各省ニ對シテ
各省ニ對シテ
各省ニ對シテ

外務省

94

0094

ヨリ長春吉林へ轉電アリタシ
北平、奉天、長春、哈爾濱、吉林、天津、廣東、南京へ轉電シ支へ
轉報セリ

般ノ問題ヲ根本的ニ解決セントスル氣運濃厚ナルカ本問題ニ關シ貴
下ニ何等カ御意見モアラハ承リ度ト述フ
三李宗仁ハ全然一己ノ支那人トシテ申上クル次第ナルカ本問題ヲ大
局上ノ見地ヨリ政治的ニ解決セサルヘカラストスル貴見ニ對シテハ
全然同意ナルカ滿洲國ヲ既成ノ事實トシテ承認スルコトハ遺憾乍ラ
承服シ難シ何トナレハ滿洲ハ支那ノ領土ノ一部ニシテ又同地住民ノ
大部分ハ支那人ナレハ同地ノ領土權ヲ喪失スルコト支那人トシテ眞
ニ忍ビ難キ處ナレハナリ
抑々滿洲事件ノ勃發ハ私見ヲ以テセハ張學良及蔣介石ノ愚策ニ基因
ス之ヲ譬フルニ廣大ナル土地ヲ有シ獨力ヲ以テハ到底使用監督シ能
ハサル程ナルモノアルニ對シ極メテ狹隘ナル土地ヲモ有セサルモノ

外
務
省

96

0096

アリト假定セヨ之レ極メテ不公平ナル現象ニシテ前者ハ後者ニ對シ
相當ノ土地ヲ賣却スルナリ無料若ハ有料貸與スルナリ兎ニ角公平ニ
融通スルコト自然ノ道理ナルカ學良介石數年來ノ遣口ハ斯ノ如キ公
平ナル共存ノ方法ヲ取ラサリシノミナラス今迄居住ヲ許シ居リタル
者ヲモ追ヒ出スカ如キ方策ヲ取レリ之レ今回ノ誘因ナレハ本件解決
ニ當リテハ此ノ點篤ト考慮ニ容レラルルコト肝要ナリト述フ（續ク）

外
務
省

97

0097

電信課長

大臣

次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事

寫送先

分類 4.1.1.1.2-3

昭和7 一六二三〇 暗

廣東 十六日後發
本省 七月十六日後着

亞

内田外務大臣

吉田總領事代理

第五〇一號ノ二

須磨ヨリ根本的解決ヲ圖ラントセハ先ツ双方民衆ノ感情緩和ニ努
ムルコト急務ナルカ上海ニ於ケル十九路軍ノ抗日ト云ヒ尙各地ニ行
ハルル「ボイコット」ト云ヒ局部的ノ反抗ハ大局上甚タ望マシカラ
サルカ兩國爲政者ハ先ツ此ノ點ニ留意セサルヘカラサルカ貴見如何
ト問ヒタルニ李ハ御尤ノ儀ナルカ實ハ中央政府ニ於テ若シ確乎タル
方針及力量ヲ有シタランニハ民衆ハ斯クモ盲動セサリシヤニ思考ス
即チ民（衆）ノ所謂抗日運動ハ眞ニ已ムヲ得サル愛國運動ニシテ貴

外務省

98

0098

記

國ノ如キ統制アリ勇氣アル軍隊ヲ有シ確乎不拔ノ方針ヲ以テスル處
アル國家ニ比シ僅カニ民衆ノ愛國運動等ニ依リ生命ヲ保チ居ル支那
ノ現状ハ眞ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリト答フ

四尙李宗仁ハ日支兩國ノ不和ハ世界ノ和平ニ一抹ノ暗影ヲ投シ居ル
ノミナラス兩虎相闘ハハ一虎ハ死シ一虎ハ傷クノ譬ヘノ如ク双方ニ
トリ甚タ不利ナルカ茲ニ更ニ懸念ニ堪ヘサルハ滿洲事件以後人民ノ
共產黨ニ對スル觀念著シク變化セル現象ナリ現在智識階級中支那ノ
將來ニ關シ自力ヲ信セス又他力タル國際聯盟ヲモ信賴セス棄鉢的ニ
赤露ニ走ラントスルモノ鮮カラサルカ斯ル現象ハ實ニ支那將來ヲ益
益希望薄ノモノトスルノミナラス世界殊ニ日本ニ取り容易ナラサル
問題ナレハ日支ノ此ノ問題ヲ解決セントセハ此ノ點ヲモ特ニ考慮ニ

外務省

99

0099

容レラレ度シト述フ
 五終リニ臨ミ李ハ特ニ中國ニ於ケル軍人トシテ（第四集團軍總司令
 トシテノ意ナルヘシ）日本ノ陸軍ニ對シ貴官（須磨）御歸京ノ序ヲ
 以テ日本ノ陸軍ハ支那軍ヲシテ「ソヴァイエツト」ニ走ラシメス相共
 ニ「ソヴァイエツト」ヲ敵トシテ戰フ爲協調的態度ヲ以テ自分ヲ指導
 セラルル様希望ストノ趣旨ノ「メツセージ」ヲ是非共御傳ヘ相成度
 シト述ヘタリ
 奉天ヨリ長春ヘ轉電アリタシ
 支、北平、奉天、南京ヘ轉電セリ
 支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

外務省

100

0100

寫

編者附言

A. 1. 1. 0. 21-12-13

滿洲日支衝突關係一件

桑折總領事代理

在橫濱支那領事館

ニリ

(分類 4. 1. 1. 0. 24-3)

昭和7 一六三〇〇 暗 香港 十八日後發 亞
 本省 七月十八日後着
 內田外務大臣
 第一三八號
 須磨ヨリ
 先方ヨリ希望ノ次第モアリ十八日孫科ト秘密會見時局ニ關シ二時間
 ニ亘リ會談シタル處右中滿洲問題及上海事件等ニ關シ參考トナルヘ
 キ點左ノ通り
 一汪精衛其他ヨリ自分（孫）ニ對シ歸京方話出アリタルモ蔣介石ノ
 意圖明白ヲ缺ク點多ク旁來香以來胡漢民唐紹儀等ヨリモ今暫ク自
 重方忠言モアリ九月中旬迄ハ當地ニ止マリ時局ノ推移ヲ靜觀シタ

記録件

滿洲日支衝突關係一件

は(4)

外務省

7.6

101

0101

キ心組ニテ自然今ノ處自分トシテ支那政府筋ノ意向ヲ述ヘ得サル
地位ニ在ルモ支那各方面ノ空氣ヨリ推論シ滿洲問題ハ日支兩國ノ
間ニ速急解決ヲ遂クルノ要アルヲ痛感ス蓋シ共產黨ノ跋扈ハ豫想
外ニシテ（別電參照）此儘ニ推移センカ滿洲上海兩事件未解決ニ
依ル混亂狀態ヲ利用シ遂ニハ共產黨ノ天下カ現出シ將又露國自体
ハ直接的ニ支那ヲ支配スルコトモアリ得ヘキカ故ナリ
ニ滿洲問題ノ解決ヲ促進セン爲學良ノ下野ヲ實現スルコトナリ先
般汪精衛羅文幹等ノ赴平セルモ之カ爲ナリト察セラルル處學良下
野セハ日本ハ滿洲問題ヲ合理的ニ解決スルノ用意アルヘキ次第ナ
リヤト問ヘルニ付須磨ヨリ「滿洲國成立ノ事實ハ何人ト雖之ヲ無
視シ得サル次第ナルカ故ニ此點サヘ支那側ニ於テ充分認メラルル

外務省

7.6

102

0102

ニ於テハ所謂滿洲問題ノ解決モ難事ニ非サルヘシト私見トシテ
答ヘタル處孫ハ滿洲ト外蒙トハ全然事態ヲ異ニシ前者ニハ多數漢
民族ノ居住スルアリ支那中央政府ノ主權ニ服スヘキコト明白ナル
カ故ニ滿洲國ノ成立ヲ支那カ正式ニ承認シ得サルハ勿論外蒙ニ於
ケル露國ノ權力ニ對スル默認ノ程度ニテ滿洲問題ヲ妥結スルコト
モ覺束ナカルヘク將又歐洲ニ於ケル「ロカルノ」安全保障協定ノ
如キ事態ヲ日支間ニ契（約）スルコトモ亦至難ナルヘク滿洲問
題解決ノ前途ハ暗澹タリト言ハサルヘカラス
ニ上海事件ニ關シテハ日本側ニ於テ此上種々註文アルカ如ク聯盟方
面モ圓卓會議等ノ提唱ヲ以テ之カ根本的解決ヲ目論ミツツアルカ
如キモ共同租界佛租界又ハ租界外道路等ノ問題ノ如ク日支間ノミ

外務省

7.6

103

0103

ナラス關係列國共同問題ニ付更ニ協議ノ必要モアルヘキカ日支間
ノ問題トシテハ上海事件ハ既ニ停戰協定ニ依リ決セリト言フヘク
排日運動停止問題ノ如キモ組織的團體運動トシテハ既ニ絶滅シ居
ルカ故ニ此上圓卓會議等ニ依リ討論ヲ重ヌルモ漸ク鎮靜シ來掛ケ
タル民心ヲ再ヒ激越ナラシムル以外ニ効果無カルヘク今後ハ上海
南京方面ノ日支關係者ノ隔意ナキ折衝ヲ續ケ行ク外途ナカルヘシ
ト思考ス

支、奉天へ轉電セリ

支ヨリ南京、上海へ轉報アリタシ

廣東へ暗送セリ

外務省

7.6

164

0104

神池
上

亞細亞局

神池 七月十八日

第一課

昭和七年七月廿日 日接受

日支通安事 支五保保

昭和七年七月十八日
福田豊知事 小栗一雄

内務大臣 山本達雄殿

外務大臣 内田康哉殿

警視庁 神宮川渡安知大政官殿
京都山口長崎各官署殿
北滿洲平漢軍運各駐軍 警備司令部

本日午後三時より駐米船舶東上後乗客小石澤港
迄中五記情報入手にたいし付当参考と
古中(通)報候也

記

105

0105

五五

本月七日北平終結公署ハ北平平漢津浦各

駐軍ニ対し最近ニ於てハ中日交渉ハ一歩ノ解

決ノ域ニ達セズ日々緊張ノ氣氛アリ又動搖

良好ニ在リ利用ニテ軌行行動ヲ企図セン

ト云ふハ就テハ交通機關ノ最モ重要ナル

係ナルヲ以テ各駐軍長官ハ部下士兵ヲ皆

皆右記情報ヲ下ニ送付セリ又中ニスル

トノ通達ヲ察スル

一爾來駐米行ハ対シ一律ニ慎重ニ施行シ

一駐米駐日ハ鉄路附近ニ停泊スルヲ禁止スル

106

0106

一 帆船ノ停泊ハ 鉄路ヲ 離スルコトヲ 支那以外

トシ 行人車輛ハ 鉄路ヨリニ 支那以外トス

一 五里毎ニ 護路柵立處ヲ 設ケ 各州ニ

一 哨兵ヲ 派シ 警備ス 柵立ヲ 担任セシム

一 哨兵毎ニ 縣兵ヲ 五名ヲ 派シ 大縣毎ニ 縣

兵三十名ヲ 派シ 臨時警備ヲ 担任セシム

一 各縣假職工、工人ニ 注意シ 以テ 反動衆ノ

煽動ヲ 利中ヲ 防止スヘシ

一 各鉄路軌道 電線、柱ノ 保護ニ 注意シ

以テ 破壞ヲ 防止スヘシ

一 鉄路沿線ニ 軍支隊ヲ 電報ヲ 装設シ 以テ

相互通信ヲ 便スヘシ

一 各軍地境ニ 護路者ハ 巡回セシム 交代セシム

一 右ハ 必要ノ 由ヨリ 即時施行ス

以上

0108

108

107

0107

編者附言

多謝

A. 1. 1. 0. 21-2

滿洲日清鐵道株式會社關係一件

西田總領事

第一八五號

昭和7

一六三七六

略

濟南

本省

七月十九日後發

並、條

西田總領事

第一八五號

昭和7

一六三七六

略

濟南

本省

七月十九日後發

並、條

西田總領事

第一八五號

昭和7

一六三七六

略

濟南

本省

七月十九日後發

並、條

西田總領事

第一八五號

昭和7

一六三七六

略

濟南

本省

七月十九日後發

並、條

西田總領事

第一八五號

寫

類A. 1. 1. 0. 21-3

昭和7 一六三七六 略 濟南 本省 七月十九日後發 並、條 西田總領事 第一八五號 調查團一行出迎ノ爲十八日北平ヨリ當地通過赴青セシ顧維鈞ハ停車 中往訪ノ中國新聞記者ノ質問ニ對シ日本ニ於ケル調查團ハ同國朝野 ノ態度強硬ナルヲ看取シ日本ハ武力ヲ以テ占領セル東北ハ何等一般 輿論ヲ顧慮スルノ要ナク斷シテ拋棄セサル意ヲ表示シタルモノノ如 キモ吾人トシテハ現有領土ヲ寸尺ト雖拋棄スル能ハサレハ更ニ準備 ヲ嚴重ニシ方法ヲ講シテ回收セサルヘカラス其方法ハ多種アランモ 外交ト軍事ハ政府ノ責任ニシテ經濟ノ制裁ハ全國民衆ノ與フル處ナ

外務省

7.6 109

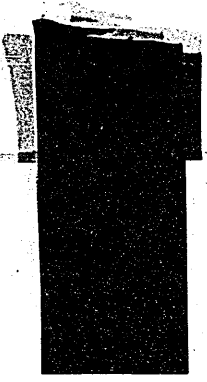
0109

レハ大イニ民意ヲ喚起シ相手方ノ注意ヲ促スヘク換言セハ即チ日貨 抵制ヲ實行スルニアリ日本ノ五月中ニ於ケル對華貿易ハ東南各省百 分ノ十五ヲ減シタルニ河北ハ却テ百分ノ二十六ヲ増加セリ之日本カ 東北ヲ占領後河北ノ日貨購買力盛トナリシ結果ニシテ調查團モ此點 ニ付中國人カ東北回收ニ充分注意セサルヤニ疑ヘルカ如シ右ニハ全 國一致スヘキハ勿論ナルモ商界同胞ハ目前ノ小利ヲ顧ミテ日貨ヲ販 賣スルモ一旦國家滅亡セハ生命財産ノ安全ヲ保シ難ク要スルニ救國 ハ自己ヲ救フニアルヲ思ハサルヘカラス現在武力ニ於テハ諸國ニ敵 セサレハ將來ニ俟ツヘキモ經濟方面ニ付テハ諸君ハ一致シテ民衆ノ 思想ヲ領導シ相手方ノ覺悟ヲ促スト共ニ諸國ヲシテ中國自身自救ヲ 計レルヲ知ラシメ然ル後他人ノ援助ヲ希望スヘシト述ヘ

外務省

7.6 110

0110



分類 A.1.1.0.2-3

編者 附言
A.1.1.0.2-3
吉田ヨリ
第二六四號

昭和7 一六三六九 暗
青島 十九日後發
本省 七月十九日後着
内田外務大臣
第一二七號
川越總領事
吉田ヨリ
第二六四號
調査委員一行十九日午後一時當地着埠頭ニテ顧維鈞等ノ出迎ヲ受ケ
提督樓ニ於ケル沈市長主催ノ午餐會ニ臨ミタル後午後六時半ノ特別
列車ニテ北平ニ向ヘリ
尙「リットン」ハ其後病狀餘リ捗々シカラサルヲ以テ成ルヘク汽車
旅行ヲ避クル爲當初當地ヨリ飛行機ニテ赴平ノ筈ナリシカ準備整ハ

外務省

112

0112

露支復交問題ニ付テハ目下進行中ナルモ慎重考慮ヲ要スヘシト答ヘ
熱河、山海關方面ノ狀況ニ關シテハ目下平靜ニシテ平津方面モ亦事
無ク有ラユル謠言ハ皆々相手方カ我國民ノ人心ヲ擾亂セシメントス
ル謠言ニ外ナラスト答ヘタル趣ナリ、御參考迄
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
支、北平、青島、奉天、天津、南京、漢口、廣東ヘ轉電シ芝罘ヘ暗
送セリ

外務省

111

0111

寫送先

文 人 文 情 條 通 歐
書 事 化 報 約 商 米

亞細亞

次 官
大臣

電信課長

(分類 1.1.1.0.21-3.)

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ
方面ヨリ出動ヲ開始セル趣ナリ右聞込ノ儘不取扱
シタルカ東北第七旅王以哲軍及第十二旅張廷樞軍ハ十七日以來通州
屬部隊ニ動員令ヲ下シ一方北寧鐵路局ニ對シ二十箇列車ノ準備ヲ命
備フル爲不取敢四ヶ旅ヲ喜峰口方面ニ出動セシムル事ニ決シ即日所
軍事會議ヲ開キ對日軍事工作ニ關シ討議ノ結果日本軍ノ熱河進出ニ
趙玉珂ノ談ニ依レハ張學良ハ十六日來平中ノ張群及蔣伯誠等ヲ加ヘ

第二八〇號

内田外務大臣

昭和7 一六三四八 暗

天津 本省

七月十九日後發

桑島總領事

亞

外務省

114

0114

サリシ爲濟南迄一行ト共ニ汽車ニテ赴キタル上同地ヨリ飛行機ニ乘
リ込ムコトナレリ
支、北平、奉天、濟南、天津へ轉電セリ

は(イ)

外務省

113

0113

寫送先

大臣 次官 電信課長
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書

(1110 21-3)

昭和7 一六五八一 暗
北平 廿二日後發
本省 七月廿二日後着
矢野參事官
第三八三號(極秘)
吉田ヨリ
第二七五號
呢懇ナル南京政府當局者ノ二十一日内話左ノ通り
一政府ハ顧維鈞ヲ委員ニ伴ヒ肅府ニ派スル方針ナリ又顧ヲ駐佛公使
ニ今任命セハ政府カ委員會ニ眞面目ナラストノ誤解生センヲ惧レ
當分見合ハセ居レリ
三日支問題解決ニ付汪兆銘ハ成案ナキ様ナリ

外務省

116

0116

支、奉天、北平、濟南、青島、南京、漢口へ轉電セリ

外務省

115

0115

三、外交總長ニハ蔣介石ハ顧維鈞ヲ推シ汪精衛ハ國民黨員タル郭泰祺ヲ望ミ從テ何レモモノニナラス羅文幹ハ厭々乍ラ同總長ヲ兼ネ居レリ

四、露支關係ニ關シテハ南京政府中極左ノモノハ兩國間ノ同盟ヲ提議セルモ汪兆銘等ハ贊成セス露ハ不侵略條約ノ締結ヲ望ミ支那ハ外交關係克復ヲ欲ス滿洲國不承認ハ何レヨリモ提議セス

五、政府ハ張學良ヲ力ニテ北平ヨリ追出ス考ヘナキモ若シ其ノ去リタル場合ニハ汪精衛ハ閻錫山ヲ其ノ後ニ据ヘントシ蔣ハ閻力敵ナリシ關係上彼ヲ好マス韓復榘ヲ望メリ

六、蔣介石ハ實ハ微毒ニ罹リ居リ骨ヲ犯シ時々腦ヲ病ミ上海ヨリ熊々支、奉天、南京、濟南、長春ヘ暗送セリ

外務省

117

0117

外務省
第一九四三號

昭和七年七月二十二日

警視總監 沼田平

内務大臣 山本達雄殿
外務大臣 内田康哉殿

王長春入京使命其他ニ関スル件

宿所 麹町區永田町二ノ一山王ホテル

國民政府軍政署兵工研究委員

專任委員(陸軍少將) 王長春

當五十年

右者蔣公使ト共ニ入京ノ旨、本月十二日外秘第一八五二號、既報ノ處、其ノ後本名ハ海軍大臣、今次官軍令部次長、高橋副官及本名ノ知己ナル本月十五日外秘第一八八〇號、既報、波多博、退役陸軍中將阪西利八郎及蔣公使李擇一(先ニ入京滞在中)其ノ他ト曾見セルカ本名今次ノ渡来使命ニ関シ、本名及屢々會見セル右波多並ニ阪西及本月十三日支那各地ヲ視察シテ歸京セル中日實業株式會社副總裁高木陸郎等ノ語ル處ヲ綜合セハ左記(一)ノ通りニ有之動靜ヲ續キ注意中

C 0119

119

118

0118

ナルカ、本名ハ今後尚頭山満、内田良平、世直野
長知並ニ上海呉鉄城市長ヨリ宮崎龍介宛ニ
添書ヲ貰ヒ居レルヲ以テ今人ニモ會見スル意
嚮ナリト漏レ、更ニ日支親善ニ關シ左記(一)
如ク語レリ。

記

(一) 本名ノ入京使命、

本名ハ元張學良ノ部下ニシテ奉天兵工廠技
師タリシ關係上、我カ陸軍部内ニ相當知已
アリ、曩ニ學良ト絶縁後ハ蔣介石ニ隸屬シ、
目下軍政部兵工研究委員會、專任委員ナ
ルカ、本名ハ這般ノ上海事件當時、關北方

面ニ在リテ裏面ヨリ日支兩國間ニ介在シ、日
本軍撤收問題等ニ關シ種々奔走セルカ、其
ノ狀況寧ロ親日態度ヲ有シ居タリシトテ國
民政府武人中、日本軍當局ニ最も好感ヲ持タ
レ居ルモノ、如ク而モ本名ハ日本語ニ巧ニシテ武
人ト雖モ外交ニ秀テタル人物ナリト。此ノ間ノ消
息ヲ知レル蔣介石ハ駐日氏國公使蔣作賓ト合
議ノ上日支間ノ局面打開ノシメ、日本ノ滿洲國承
認延期中ニ、日支直接交渉ヲ為スヘキ意ヲ決シ、
右公使ニ其ノ意ヲ告メ、日本朝野ノ對支意嚮
ヲ探究セシメ、之カ對策樹立ヲ企テタル模様ナル
カ、公使ノ資格ニテ邦人ニ接觸スルハ種々不便

ナル処ヨリ、便宜上、將介石ハ王長春ニ旨ヲ含メテ
多額ノ機密費ヲ支給シ、蔣公使ニ隨伴セシメ
タリト云ヘルカ、眞使命ノ如ク見受ケラレ表面ハ息
和成ヲ留學セシムル一面近ク南京ニ建設セラレハ
兵工研究所ノ參考資料硏究ノタメ渡来シタル
モノニシテ日本現在ノモノハ目下民國ノ財政上到底
設置スルコト能ハサルヲ以テ明治四十四五年頃
ノ日本ノ兵工狀態ヲ詳細硏究シ參考ニ供シ度
キ意嚮ナリト稱シ居シリ。

(二) 日支親善談

由來日支兩國ハ親善ニテ進マサル可ラサルニ日本ハ
滿洲ニ於テ治安維持ノシメト稱シ多クノ支那人
ヲ殺害シ、下リ、之レヲ止メサルニ於テハ日支親
善ヲ實現スルコトハ困難デアラウ。支那民衆ハ
一ニ惡徳ノ日本人ヲ觀テ直ニ全日本人ヲ惡イ標ニ
感シテ排日ヲ始メ又政治家中ニハ之レヲ對内策ニ
利用シ、遂ニ這般ノ如キ上海事件ヲ惹起セシメタリ。
如斯ハ洵ニ遺憾ノ次第ナルヲ以テ日本政府ハ惡徳曰
本人ヲ取締ルタメ警察力ノ充實ヲ期スル要カアラ
ウ。ソレト共ニ朝鮮人ノ惡性者ヲモ嚴重取締ル
要アリト思フ。何トナレハ朝鮮人ノ惡行ヲ支那
民衆ハ日本人ノ使喉ニヨルモノト誤解シテ居ルカ故
ナリ云々

右及申報候

C 0123

123

122

0122

外務省
昭和七年七月廿二日
外秘第一九四九號

警視總監 藤沼庄平

内務大臣 山本達雄殿
外務大臣 内田康哉殿

神奈川大阪愛知
京都兵庫廣島長崎 各府縣長官殿

南京政府ノ密使ト稱スル民國海軍
武官ノ來往及其行動ニ関スル件

麻布區霞町一六倉組社員岡田有民方滞在

南京政府海軍部顧問

李 擇 一 四十四年

六月一日外秘第一四七一號、既報右者再渡來ニ
関シ長崎(貴)縣ヨリ電報及首題通報アリ、次
テ兵庫(貴)縣ヨリモ通報アリタルヲ以テ今人
ノ行動銳意關係方面ニ付内查中ノ處本名ハ七
月三日姫路ヨリ單獨入京毎次ノ例ノ如ク肩書ニ
寄寓シ既報ノ岡野海軍中佐及阪西陸軍中將
其他ノ知人ヲ訪問シ居リシカ今回ハ特ニ現在當
面セル日支間ノ時局解決ト西國ノ親善ヲ圖ルタ
メ陰ニ陽ニ盡カスル決心ナル旨ヲ語り我朝野名士
ト會見スルコト、シ陸軍主腦部ヘハ前記阪西中

0125

125

124

0124

將ノ仲介ニテ會見ヲ申込ミタルモ体良ク拒絶セラ
レ其後參謀本部長田第二部長及陸軍省軍事課
鈴木中佐ト會見シタル模様ニテ他ニ丸山元警
視總監及支那關係邦人中ノ古參者杉山茂丸
田萱野長知等ト會見シ其意見ヲ聽取シタル
趣ニテ孰レモ日支親善論者ナリント洩ラシ居タ
リ。更ニ七月十一日蔣駐日公使ノ飯任後ハ屢次同公
使及公使ト同行渡來セル陸軍少將王長春ヲ訪問
シツ、アル外他ニ特異ノ行動ヲ認メサリシカ同人
ハ既ニ在京ノ用務モ終了シタリトテ明二十三日夜
行列車ニテ退京神戸ニ赴キ翌二十四日同地出帆ノ
便船ニテ上海ニ向ケ飯國ノ苦ナリト

因ニ本名滯京中邦人間ニ自己カ日本トノ緣故
深ク現在ノ日支國交ノ解決ニハ其適任者ナルヲ
以テ之カ枢機ニ干與シ居ルコトヲ頻リニ吹聴シ居
リタル等ニ徴シ南京政府ノ密使タルカ如キ重
大使命ヲ帶ヒ來レルモノニアラサルモノト認メラ
ル、ニ付爲念

右及申(通)報候

0127

127

126

0126